

映像研究グループ発足

皆さんは、下高に映像研究をしているグループがあることを知っているだろうか。今回はそのようなグループの謎多き実態を調査すべく、グループ代表の五十嵐一駿さん(1年1組、以下五十嵐さん)、石津遼真さん(1年1組、以下石津さん)、唐崎翔琉さん(1年1組、以下唐崎さん)にお話を伺った。

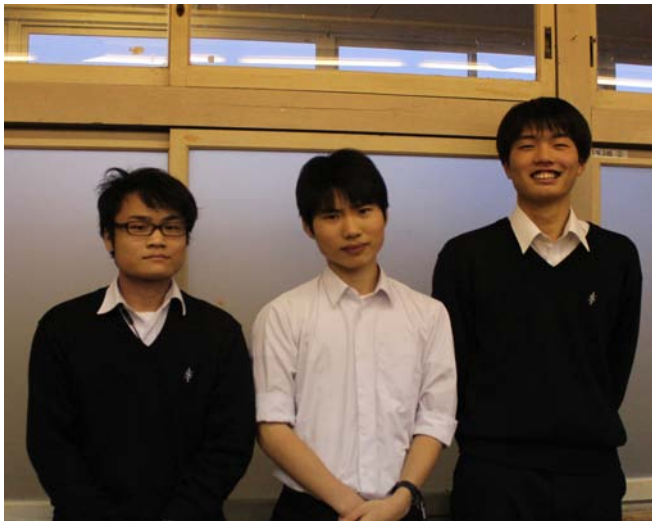
まず、同グループができた経緯について、「1年1組の級監である西田大輔先生が映像に精通しており、放課後に暇な人を集めてできたのがきっかけだ」と振り返る。去年の4月に同グループを作らないかという話が出始め、夏に実際にグルー

プが成立したそう。普段、コンクールに自分たちが作った作品を出展するために、メンバーたちが企画・撮影・編集をこなしているという。コンクールに出す作品としては、為桜体操についての特集、オリジナルドラマの作成など多岐にわたる。



写真上 グループの皆さん
(矢吹撮影)

写真右
左から
唐崎さん
五十嵐さん
石津さん
(矢吹撮影)



唐崎さんは「コンクールで全国大会に出場することが目標だ」と語る。また、五十嵐さんは「映像をつくる時には見ている人がどう思うのか、またしっかりと筋が通っているのかを心がけている」と説明した。

唐崎さんは「コンクールで全国大会に出場することが目標だ」と語る。また、五十嵐さんは「映像をつくる時には見ている人がどう思うのか、またしっかりと筋が通っているのかを心がけている」と説明した。

できたばかりで不安も多いそうだ。「まだこのグループ自体を知らない人が多く、また知らない人も具体的になんか活動をしているのか分からない人も多いので、私たちのことをたくさんの人に知ってもらえたらとても嬉しい」と五十嵐さん。また、これからどのようなグループにしていきたいかを問うと、石津さんは「メンバーの皆と仲良く、楽しくやっていきたい」と話す。

(矢吹)

論説

ビックデータ 情報を適切に扱え

昨今のICT(情報通信技術)の発達によって社会では情報化が加速している。身近な電子機器であるスマートフォンから検索履歴や1日の行動に関する情報がビックデータとして集められている。ビックデータとはインターネット上の膨大なデジタルデータを表す。2000年代初めに業界アナリストであるダグ・レイニー氏は「量」、「速度」、「多様性」とビックデータを定義した。ビックデータの出現によって多大なデータの生成や収集が促進されて私たちの生活に大きな影響をもたらしている。

興味や関心事を検索履歴から推測されている可能性がある。

ビックデータのメリットとして接客業などにおける需要に合ったサービスの提供や業務の効率化が挙げられる。例として地方公共団体などの公的機関が有するデータを民間企業が活用しやすいようにしてホームページで公開するということがある。公共インフラや観光施設などデータは多種に及ぶが、公表によって民間の会社は技術向上に役立てることが可能になる。ネット広告配信会社においてはネット通販を運営する企業との提携によってネット通販を利用する客の趣味にあわせた広告を表示できる。

場データとして販売されていたことや就職情報サイトである「リクナビ」を運営する「リクルートキャリア」が企業に対して「内定辞退率」の予測を販売していたことが問題となった。利用者本人が知られたくないプライバシーが他人に渡って使用されているかもしれない。

一方でビックデータにはデメリットがある。それはプライバシーの問題である。以前、ICカード乗車券の乗降履歴が市

このような事態が起きないように、米国の「グーグル」は利用者のインターネット上での検索履歴をネット広告配信会社などの第三者が使用できないように制限するという方針を発表した。これを機にプライバシーの侵害を水際で防ぐ施策が増えていくだろう。

(稲葉)

現実



3年生の皆さん、もうすぐ卒業ですね。私たち新聞部は学校行事や部活動の取材を通して3年生の立派な姿を見させていただきました。この経験を糧に日々の新聞作成に精進していきたいと思っています。皆さんのご活躍とご健康を祈っています。

新聞部より